

コミュニティ・スクールの導入の構想

1 三原市の進めるコミュニティ・スクール

学校運営協議会

学校運営を審議する場でビジョンや課題を共有し、それぞれの役割を明確化しながら学校運営の改善を図る組織。



学校づくりの仕組みであり学校のガバナンス改善を図る仕組み



地域学校協働本部

幅広い地域住民や団体等の参画により形成された緩やかなネットワークを基盤とする組織。

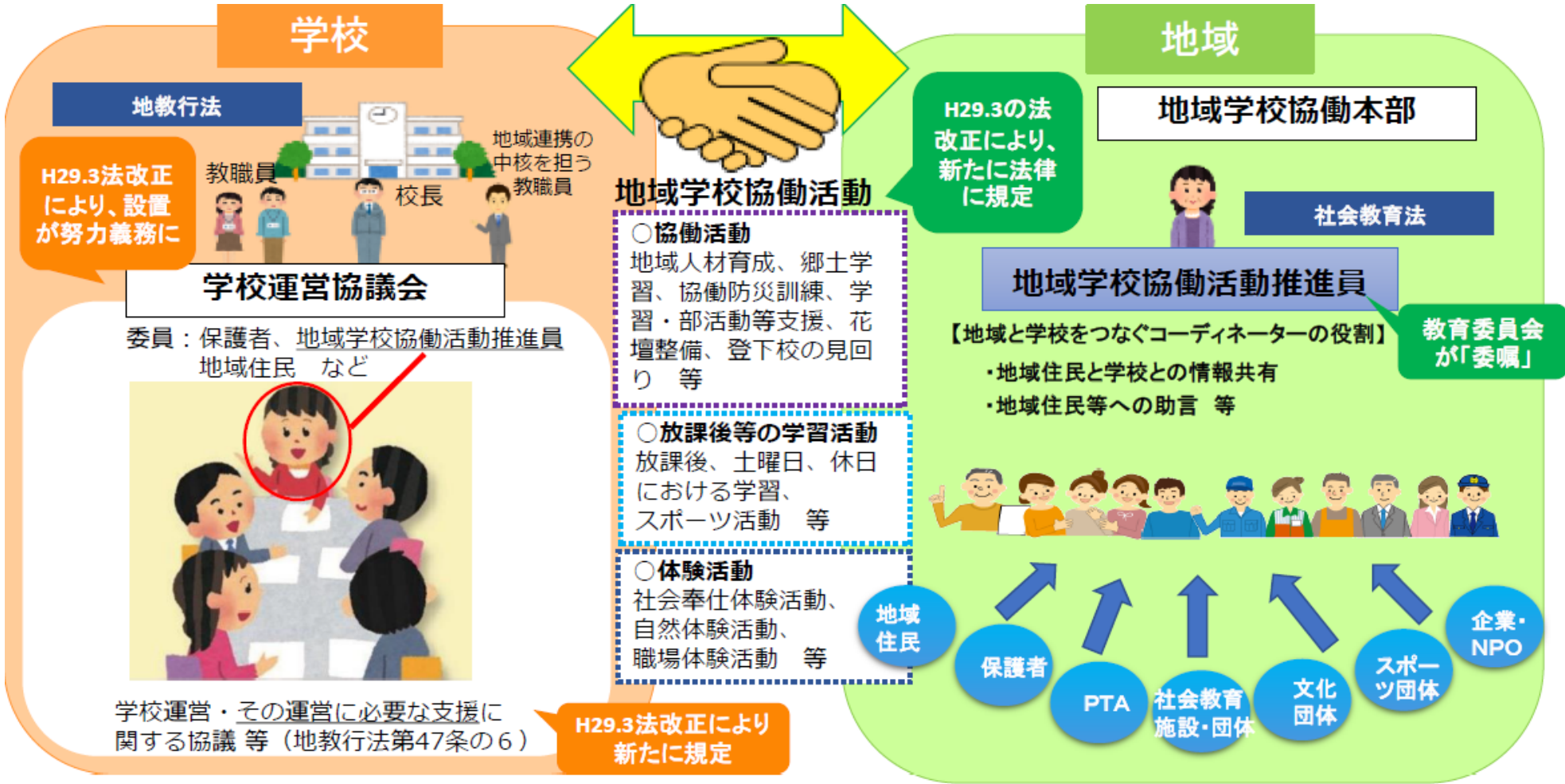


学校における子供たちの学びや成長を地域全体で支える仕組み



一体的に推進

2 三原市コミュニティ・スクールとは



3 効果的かつ持続的な学校運営を行っていくための学校・地域のPDCA



4 コミュニティ・スクール導入のメリット・デメリット

□共通 ☆国の資料から ○三原市の考え

メリット（効果・魅力を含む）	デメリット
<p>□「<u>地域とともにある学校づくり</u>」と「<u>学校を核とした地域づくり</u>」に有効。</p> <p>□<u>校長や教職員の異動があっても、地域との組織的な連携・協働体制が継続できる。</u></p> <p>□<u>学校と地域で情報（子供たちがどのような課題を抱えているか、地域でどのような子供を育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョン」）を共有することで、関係者がみな当事者意識をもち、「役割をもって連携・協働する取組」ができる。</u></p> <p>□<u>地域が学校に協力的になる。（学校と地域の関係性が深まる）</u></p> <p>☆<u>学校改善に有効。</u></p> <p>☆<u>地域学校協働活動の活性化に有効。</u></p> <p>☆<u>教育課程の改善・充実に有効。</u></p> <p>☆<u>各地域の特色を活かした教育活動が見られるようになる。</u></p>	<p>□<u>運営費や謝金等の予算が必要となる。</u></p> <p>□<u>各地域に十分な適任者が見つかりにくい。</u></p> <p>□<u>成果が出るまでに一定の労力と時間が必要となる。</u></p> <p>☆<u>コミュニティ・スクールの成果が明確でない。</u></p> <p>○<u>学校運営協議会のメンバーが固定化されると、校長より発言権が強くなる。</u></p> <p>○<u>地域のための学校という考えに立ち、地域からの活動要求が高まり、学校の負担が増す。</u></p> <p>○<u>学校間の活動内容に格差が生じる。</u></p> <p>○<u>委員の意欲によって大きく左右される。</u></p>
<p>【子供にとって】</p> <p>□<u>防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができる。</u></p> <p>○<u>子供たちの学びや体験活動が充実する。</u></p> <p>○<u>自己肯定感や他人を思いやる心が育つ。</u></p> <p>○<u>地域の担い手としての自覚が高まる。（地元への愛着・誇り）</u></p> <p>○<u>予測できない物事に主体的に向き合い関わり合いながら、より良い社会を目指し、課題解決していくことができる。</u></p>	<p>【子供にとって】</p> <p>○<u>地域行事への参加要請が増え、子供の負担増となる可能性がある。</u></p>

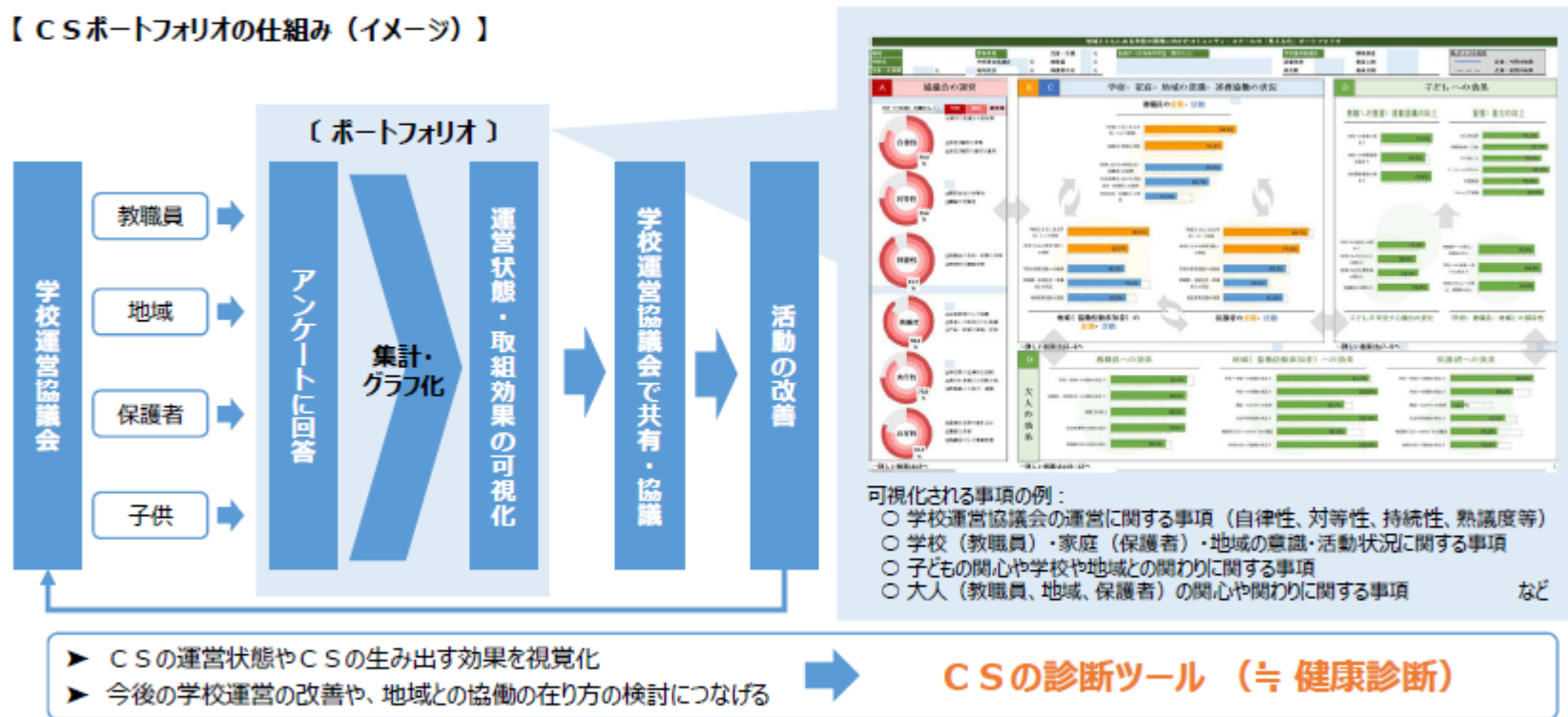
メリット（効果・魅力を含む）	デメリット
<p>【地域住民にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> □活動団体の横の連携ができるようになり、<u>地域のつながりが強化され地域力が向上する。</u>（地域が活性化する） □学校が社会的つながり、地域のよりどころとなる。 □地域の防犯・防災体制等の構築ができる。 ☆地域の人材が活用されるようになる。 ○経験を生かすことで<u>生きがいや自己有用感</u>につながる。 ○学校を核とした地域ネットワークが形成され、<u>地域の課題解決</u>につながる。 	<p>【地域住民にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> □地域住民との連携・協働が充実する一方で、<u>地域住民の負担増</u>となる可能性がある。
<p>【保護者にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> □地域の中（環境）で子供たちが育てられているという<u>安心感</u>が生まれる。 □学校や地域に対する<u>理解が深まり</u>、家庭教育との相乗効果が生まれる。 ○保護者同士や地域の人々との<u>人間関係</u>が構築できる。 	<p>【保護者にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> □保護者との連携・協働が充実する一方で、<u>保護者の負担増</u>となる可能性がある。
<p>【教職員にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> □地域の協力により<u>子供と向き合う時間が確保</u>できる。（学校行事・交通指導等） □<u>地域の人々の理解と協力を得た学校運営</u>や「<u>社会に開かれた教育課程</u>」の実現が可能となる。 □<u>地域人材を活用した教育活動</u>が充実する。 ○<u>関係団体との窓口</u>が一本化される。 	<p>【教職員にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> □立ち上げから安定稼働までは、<u>管理職や担当教員の負担</u>が大きくなる。 □各地域の適切な<u>協議会委員の確保</u>・選定が難しい。 ○協議会の日程調整や準備に<u>労力</u>がかかる。 ○協議会の開催が<u>勤務時間外</u>の開催となる可能性が高くなる。

CSポートフォリオ（コミュニティ・スクールの効果検証ツール）の活用について

各地域・学校において、コミュニティ・スクール関係者（教職員・地域・保護者・子供）に対するアンケート結果を相互に関連付けて集計し、CSの運営状態や取組の効果等をグラフ化・視覚化する検証用ツール「CSポートフォリオ」の活用により、当該地域・学校の取組状況を関係者間で共有し、改善に向けた協議や取組につなげることが可能となる

（※文部科学省委託事業として、令和2年度は、試行的に一部小中約40校で検証を実施。令和3年度は、小中における継続検証及び高等学校での検討・検証を実施予定）

【CSポートフォリオの仕組み（イメージ）】



【今後の活用の可能性】

- ① ポートフォリオを定期的に活用することで、各地域・学校のCSの現状や成果、課題の視覚化と経年比較が可能となり、学校運営協議会で共有・改善方策について協議することで、PDCAサイクルを効果的に回すことができる（定期健康診断）
- ② 項目の工夫などにより、学校評価（関係者評価）を兼ねて実施することで、学校業務の効率化・デジタル化にも寄与